



TITLE:

勸業及農工銀行ノ合併ニ就テ

AUTHOR(S):

戸田, 海市

CITATION:

戸田, 海市. 勸業及農工銀行ノ合併ニ就テ. 經濟論叢 1918, 6(4): 560-571

ISSUE DATE:

1918-04-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127359>

RIGHT:

京都帝國大學法學大科大學

經濟論叢

第六卷 第四號

大正七年四月一日發行

論說

『座』ノ研究(再ビ).....

文學博士

三浦周行

農會瑣言.....

法學博士

財部靜治

京都ニ於ケル舊時ノ鹽屋仲間.....

法學士

本庄榮治郎

營業稅ノ課稅標準(二)定.....

法學博士

神戶正雄

Unto this Last ヲ讀ム(一)定.....

法學博士

河上肇

職工組合論(二).....

法學士

河田嗣郎

我國^{ニ於ケル}營利心ノ起源及發達(三).....

文學士

銅直勇

時事問題

米國禁輸問題ノ解剖.....

法學博士

神戶正雄

勸業及農工銀行ノ合併ニ就テ.....

法學博士

戸田海市

雜錄

大阪市ニ於ケル窮民ノ家計(一).....

法學士

櫛田民藏

續獨逸經濟學界近況(二).....

文學士

米田庄太郎

物價ト割引歩合トノ平行.....

文學士

高田保馬

米國ノ戰時海運政策(三)定.....

法學士

岸本熊太郎

米國ノ戰時租稅法(二).....

在米

阿部賢一

帝國統一後ノ獨逸ノ植民的活動(上).....

山本美越乃

勸業及農工銀行ノ合併ニ就テ

戸田海市

此合併問題ニ付キ予輩ハ豫テヨリ反對意見ヲ有スル者テアルガ、此反對意見ニ付テハ既ニ國家學會雜誌ニ於ケル矢作博士及本誌ニ於ケル河田學士ノ詳細ナル論文ニ由テ説キ盡サレタルノ觀カアル。併シ乍ラ政府ガ合併案ヲ立テテ將ニ之ヲ今期ノ議會ニ提出セントシテ中途ニ其提出ヲ見合スニ至ツタノハ學界及實業界ノ大勢力合併ヲ決定のニ否認スルニ傾イタ爲メテハナク、寧ロ之ヲ懸案トシテ更ニ慎重ノ研究ヲ國民ニ要求スルノ意味テアルヤリテアル。是レ予輩力能ク足ノ嫌ヲ顧ミスシテ過日中部農工銀行業諸氏ノ會合ノ席上ニ述ヘタ所見ヲ本トシ、簡單ナル一文ヲ草シテ茲ニ之ヲ公ケニスル所以テアル。

勸業及農工銀行ノ合併ノ當否ヲ判斷スル根本ノ標準ハ、其合併カ兩種銀行ノ存在目的ニ有利ナリヤ將タ有害ナリヤヲナクテハナラス。然ラハ先ツ其存在目的ハ何ナリヤト云フニ、最初法律ハ農業ノ改良發達ヲ助クルノ目的ヲ以テ不動産抵當ノ方法ニ由ル金融ヲ爲スヘキコトヲ命シタガ、其後此目的ハ削除セララルニ至ツタ、併シ之ヲ削除シタノハ過去ノ高利ナル抵當債務ニ若シミツツアル農工民ヲシテ勸業及農工銀行ヨリ低利ノ資金ヲ借り出シテ舊債ヲ償還セシメ、以テ其經濟上ノ地位ヲ改善セシムルコトハ、新タニ農工業ニ投資スルト同様ニ事業ヲ進歩セシムルニ必要ト認メタ爲メテアツテ、本來ノ設立目的タル農工業ノ改良發達ト云ヘル目的ヲ全ク拋棄シタノテナイコトハ、當時ノ立法ノ經過ニ由リ明カテアル。而シテ此兩種銀行ハ農業ト工業トノ兩者ニ對ス

ル金融ヲ兼ヌルモノテアルガ、併シ農業及農村ノ金融ヲ主トスヘキコトハ法律ノ要求スル所デアツテ、又此ノ法律ノ要求ハ正當ナモノテアル。

何故ニ法律ノ要求スル此目的カ正當ナリヤト云フニ、我國ニ於テ農業ヲ發達セシムルノ急務ナルハ、敢テ歐洲戰爭ノ爲メニ銳敏トナルニ至リシ國防上ノ見地ヨリシテ、食物自給策ノ重要視スヘキカ爲メノミテナイ。歐洲先進國ハ平時其國民ノ主要食物ヲ外國ヨリ廉價ニ輸入シ得ルニ反シ、我國民ノ主要食物タル日本米ト云ヘル特殊ノ米ハ、我領土外ヨリ之ヲ輸入スルコトノ出來ナイモノテアツテ、是非トモ之ヲ國內農業ノ生産ニ仰カテハナラヌノテアルガ、我國ハ人口既ニ甚タ稠密ニシテ且ツ其増殖率モ相當ニ高キニ反シ、不幸ニモ耕作適地ハ甚ダ狹小テアル。故ニ若シ我國カ國內農業ヲ發達セシムルコトヲ怠ツタナラハ、今後日本米ハ著シク騰貴シ、之ガ爲メ一般商工業ノ發達モ阻止セラレ、又次第ニ切迫シ來レル社會問題ノ解決モ非難ノ困難トナラサルヲ得ナイカラテアル。此點ヨリ見レハ我經濟ノ維持發達ハ今後モ農本の性質ヲ失ハナイモノテアルガ、從來勞働ニ關シテ過度ニ集約ナリシ我農業ヲ時勢ノ變遷ニ應シテ進歩セシムル根本ノ方法ハ、更ニ資本ノ要素ヲ多ク投下スルノ外ハナイ。然ルニ農業ニ資本ヲ投下シテ之ヲ改良發達セシムルノ任務ハ、實ニ勸業及農工銀行カ主トシテ之ヲ負擔スルノ外ハナイ。果シテ然ラハ兩者合併ノ可否ハ一ニ此合併カ農業資金ノ融通ニ對シテ如何ナル影響ヲ及ボスヤヲ見テ之ヲ決セテハナラヌ。

歐米ニ於テハ農業經營ノ規模カ一體ニ大キク、特ニ大規模ノ農業モ少ナカラス存在スル。故ニ不動產銀行カ大中地主ヲ相手トシテ不動產金融ヲ營ムコトカ直接ニ農業金融トナル機會カ甚タ多イ

ノデアル。然ルニ我國ニ於テハ經濟上社會上ノ種々ノ原因ヨリ一般ノ農業カ一町歩内外ノ耕作ト云フカ如キ細小企業ニ由テ經營セラレ、大中地主ハ多ク存在スレトモ、大中企業ハ存在セス、此種ノ地主ハ全然農業ヲ經營セスシテ小作料ニ由リ生活スルカ、又ハ其所有地ノ一部分ヲ自カラ小規模ニ經營シテ他ノ部分ヲ小作ニ附スルヲ常トスル。故ニ不動産銀行カ直接ニ農業ニ對シテ金融ヲ爲サントスレハ、大地主ニ對シテノ金融ハ勿論、中地主ニ對シテ金融ヲ爲スモ多クノ效果ナク、一二町歩以内ノ小耕作ヲ有スルニ過キサル自作農ニ對スル金融ヲ主トセザナラヌ。勿論此種ノ小地主ノ需用スル資金ハ一般ニ小口ノモノテアル。然ルニ不動産銀行カ此種ノ小地主ニ對シテ小口貸付ヲ爲スコトハ危險モ多ク、又其手續費用モ多ク、營利事業トシテハ概テ不當ナルカラ、從來不動産銀行ノ貸付ハ主トシテ大中地主ヲ相手トシテ比較的大口ノ貸付ヲ爲スコトナツテ居ル。是レ我國ノ不動産銀行カ地主金融ヲ營ムモ農業金融ヲ營マス、從ツテ國家力之ニ特別ノ保護ヲ加フルノ理由カナイト批難セラルル所以テアル。固ヨリ大中地主カ不動産銀行ヨリ借入レタル資金ヲ轉取リノ自作農ヤ小作農ニ轉貸シ、間接ニ農業金融ヲ助クル場合モナイテハナイガ、同時ニ其借入資金カ土地ノ買占ニ利用セラレテ土地兼併ノ弊ヲ助長シ、或ハ米ヤ株ノ思惑資金トナリ、又ハ政治的社交の費用ニ供セラルル場合ノ少ナカラサルコトハ爭ハレナイ。予輩ハ一部ノ論者ノ如ク今日ノ不動産銀行ヲ以テ全然農業銀行タルノ資格ナシト主張スル者テハナイ。其ノ大口ノ貸付ノ中ニハ耕地整理ヤ水利事業ヤ其他ノ農業上ノ團體的事業ニ對スル融通モ少グナイガ、今後ハ更ニ之ヲ完全ナル農業金融ノ機關タラシムヘク改善スルノ必要ガアル。而シテ此改善ノ目

的ヲ達スルニハ成ルヘク自作農及産業組合ヲ相手トシテ小口貸付ヲ盛シニ行ヒ、以テ直接ニ農業ノ改良進歩ヲ圖ルト同時ニ、漸次衰退セントスル自作農階級ノ地位ヲ鞏固ナラシメテ土地兼併ノ弊ヲ防止セネハナラス。果シテ然ラハ合併問題ノ可否ヲ決スル最先ノ標準ハ、合併カ小口貸付ノ發達ニ有利ナリヤ將タ有害ナリヤテナクテハナラス。世人ハ通例不動産銀行ノ合併ヲ論スルニ方リ、合併カ一般ニ不動産金融ノ能力ヲ高ムルヤ否ヤノ點ニ重キヲ置クガ、此見方ハ甚タ誤ツテ居ル。合併ノ可否ヲ決スル要點ハ漠然ト一般不動産金融ニ及ホス影響ノ如何テハナク、特ニ農業金融ニ及ホス影響、從ツテ此種金融ニ必要トスル小口貸付ノ消長ニ關スル影響ヲ考ヘネハナラス。合併ト分主トノ小口貸付ニ及ホス影響如何ト云フニ、多クノ論者ノ認ムルガ如ク合併ハ小口貸付ヲ發達ヲ阻碍スルモノテアル。從ツテ合併ハ不動産銀行ノ設立目的ニ反スルモノト斷定セネハナラス。然ラハ何故ニ合併ト分立ト小口貸付ノ發達上此ノ如キ差ヲ生スルヤヲ約言スレハ、第一ニ銀行經營ノ原則タル危險分散ノ關係ヨリ見テ、銀行ノ資力ノ大ナルホド大口ノ貸付ヲ爲スモ危險ヲ感スルノ度カ小トナルノテアルガ、只サヘ強大ノ資力ヲ有シテ大口貸付ニ傾ケル勸業銀行カ合併ニ由リ多々益其資力ヲ増大スルトキハ、個々ノ貸付高ヲ更ニ著シク大ニスルノ能力ヲ生シ、從ツテ其實際ノ活動モ益農業金融ヲ離レテ純然タル地主金融及商工業金融ニ傾クノ危險カアル。第二ニ農業金融タルト商工業金融タルトヲ問ハス、一般ニ小口貸付ハ大口貸付ニ比シテ利率カ高イノテアル。故ニ若シ銀行ノ當局者ニシテ資金需用者ノ地方的個別的事情ニ精通シ、且ツ嚴重ノ規則ニ束縛セラレスシテ自由裁量ノ權限ヲ有スルナラハ、比較的安全ニ小口貸付ヲ行フテ相當ニ利

益ヲ舉クルコトヲ得ルノテアルガ、合併ヲ行フテ府縣農工銀行ヲ勸業銀行ノ支店トシ、其支店長ヲシテ府縣ノ不動産金融ニ當ラシムルコトトスルトキハ、銀行當局者ノ能力ト其權限トニ變化ヲ生シテ小口貸付ヲ充分ニ行フコトヲ不適當トナラシムルヲ免レナイ。只タ農工銀行ノ分立スル場合ト雖トモ、其資力カ更ニ強大トナルトキハ、今日ヨリモ一層大口ノ貸付ニ傾クノ危險カナイテハナイガ、併シ假令ヘ其資力カ強大トナルトハ云ヘ、勸業銀行ノ如ク大資力ヲ有スルニ至ルコトハ絶無ト云フヘク、又農工銀行ノ活動ハ一府縣ノ範圍内ニ局限セラレ、且ツ大口ノ資金需用ノ最も多キ市街地ニ對スル融通ヲ強ク制限セラレテアル故、勸業銀行ノ如ク有利ナル大口ノ貸付ヲ汎ク全國各方面ニ探求スルノ自由ヲ有セス、從ツテ農工銀行ノ資力ノ充實スルニ從ヒ、今日ヨリモ大口ノ貸付ヲ爲ス場合ノ増加スルト同時ニ、更ニ小口貸付ノ方面ニモ發展スルノ必要ヲ感スルコトカ強クナルノテアル。

二

勸業及農工銀行ノ合併ノ可否ヲ判斷スルニハ、前述ノ如ク其合併カ一般不動産金融ノ能力ヲ高ムヘキ否ヤテハナク、眞ニ農業ニ對スル金融能力ヲ増進スヘキヤ否ヤテナクテハナラヌ。純然タル營利的ノ不動産銀行ナラハ兎モ角、我カ勸業及農工銀行ノ如ク農業發達ヲ主タル目的トシテ國家ノ特別ノ保護ニ由リ設立セラレタル特種ノ銀行ニ在テハ、此設立目的ヲ中心トシテ合併ノ可否ヲ研究シナイ議論ハ、研究ノ出發點ヲ誤ツタモノト云ハネハナラヌ。世上ノ合併論ノ多クハ議論ヲ進メル前ニ先ツ正當ノ出發點ヲ求メルコトヲ等閑視シタノテハナイカト思ハレルガ、要スルニ合

併論者ノ主張スル重要點ハ、第一合併ニ由リ大規模ニ金融業ヲ經營スレハ其經費ヲ減シ、從ツテ其貸付ノ金利ヲモ低下シ得ルコト、第二ニ合併ニ由リ全資力ヲ統一的ニ支配シ、且ツ全國ヲ一區域トシテ自由ニ活動スルニ至レハ、其資金ヲ容易ニ餘リアル所ヨリ取ツテ之ヲ足ラサル所ニ配給シ、以テ貸付金利ノ不平均ヲ矯正シ得ルコトノ二點テアル。故ニ是レヨリ此兩點ニ付テ簡單ニ批評スル。

論者カ合併ノ結果ヲ論スルニ方ツテハ通例他ノ事業ノ合併ノ場合就中普通銀行ノ合併ノ場合ヨリ類推スルノテアツテ、此ノ如キ類推ノ第一ノ結論ハ大規模ニ金融業ヲ營ムコトニ由リテ其生産費即チ銀行經費ノ減少ヲ來タシ、以テ資金需用者ニ金利低落ノ利益ヲ與ヘルト云フコトテアル。普通銀行ノ合併ハ一般商工業ノ集中の傾向ト步調ヲ共ニシテ盛ンニ實行セララルルコトカ、世界ノ大勢テアリ、我國ニ於テモ近來商工業ノ進歩ト共ニ著々普通銀行ノ統一集中カ行ハレツツアルガ、其合併ハ必シモ直接ニ經費ヲ減少スルモノテナク、寧ロ經費ハ幾分ノ増加ヲ示ス場合少ナカラサルモ、一面ニ企業能力ヲ著シク増進スルコトニ由リ、結局廉價ニ銀行ヲ經營スルコトトナルノテアル。而シテ其合併カ直接ニ經費ヲ減少シ難キ所以ハ第一ニ支店監督ノ機關カ膨脹シテ、監督ノ費用手數カ大トナリ、第二ニ地方ノ銀行ヲ買收シテ其獨立ノ地位ヲ奪フカ爲メニハ收益價格以上ニ買收代金ヲ支出シ、又ハ其合併資本ヲ高ク見積リテ之ニ賠償スルノ必要カアルカラテアルガ、此等ノ事柄ハ勸業及農工銀行ノ合併ノ場合ニ於テモ豫期セテハナラヌ所デアル。

然ラハ普通銀行ハ何故ニ合併ニ由リ著シク金融上ノ能力ヲ増進シ得ルヤト云フニ、第一普通銀行ハ短期預金ヲ主要ノ營業資本トシ、從ツテ又短期ノ貸出ヲ爲スコトヲ營業ノ本體トスルモノテア

ルガ、此ノ如キ短期ノ預金受入ト貸出トハ絶ヘス著シキ増減ヲ示シ、而モ一方ノ増減カ正確ニ他方ノ増減ト相伴ハサル爲メ、其間ニ著シキ不權衡ヲ生スル場合カ屢起リ、其結果小規模ノ銀行ハ其實力相當ノ活動ヲ爲スコトカ困難危險テアル。此不利ヲ免レントスレハ成ルヘク種々ノ地方及種々ノ階級ニ向ツテ其營業ヲ擴張シ、以テ資金ノ出入ノ平均スル機會ヲ多カラシメテハナラヌノテアツテ、地方銀行ヲ合併スルコトハ地方支店ノ設置ト共ニ其有效ナル方法テアル。最モ以前ハ銀行經營ノ術モ進歩セス、又交通々信モ不便テアツタ爲メ、合併ヲ行フモ各店間ノ連絡ヲ完全ニシテ其利益ヲ舉クルコトカ困難テアツタガ、進歩シタル今日ニ在テハ充分ニ合併ノ利益ヲ舉ゲ得ルノテアル。然ルニ不動産銀行ハ一般金融市場ノ平均的状況ヲ見テ好機會ヲ撰ミ、一時ニ取纏メテ發行スルコトヲ利益トスル所ノ債券ニ由リテ其營業資本ヲ造ルモノテアリ、又其貸出モ長期ニ亘ルモノテアツテ普通銀行ノ如ク其額カ絶ヘス著シキ變動ヲ生スルモノテナク、從ツテ又普通銀行ノ如ク合併ヲ行フテ資金出入ノ平均ヲ得セシムルコトニ由リ著シク其金融能力ヲ高ムルヲ得ナイ。

第二ニ近來商工業ハ一般ニ大規模トナリ、從ツテ普通銀行カ之ヲ相手トシテ金融ヲ營マントスレハ著シク大口ノ取引ヲ爲シ得ルコトヲ必要トスルカ、銀行ノ規模カ小ナルトキハ危險分散ノ關係上大企業ヲ相手トシテ有利ノ取引ヲ行フコトヲ得ナイ。是レ普通銀行モ一般企業ト相伴フテ其規模ヲ大ニスルコトヲ必要トスルニ至ツタ所以テアルガ、合併ヲ行フコトハ其規模ヲ大ニスル重要ノ一方法テアル。然ルニ農業ハ商工業ニ反シテ集約ニ進ムニ從ヒ寧ロ其規模ヲ小ニスルコトヲ有利トシ、特ニ我國ノ農業ハ既ニ論シタル如ク過度ニ小規模ノモノテアル。故ニ不動産銀行カ之ヲ

相手トシテ取引スル爲メニハ決シテ其規模ヲ大ニスルノ必要ハナク、實ハ今日ノ規模モ眞ノ農業金融ノ機關トシテハ過大ナラサルヤヲ疑問トスヘキホドアル。

第三ニ普通銀行ハ外界ノ事情及銀行自身ノ事情ニ由リ預金取付ケノ危險ニ暴露セラルルモノデアツテ、此危險ニ對シ其地位ヲ安固ナラシムル爲メニハ多數銀行カ合併シテ其資力ヲ大ニシ、一朝其營業カ不安ニ陷リシ場合ニハ、先ツ最モ危險ノ切迫セル方面ニ對シ其大資力ヲ集中シテ直チニ之ヲ鎮壓シ、更ニ破綻ノ生セントスル他ノ方面ニ順次ニ轉シテ之ヲ防禦スルコト、恰モ今日ノ歐洲戰爭ニ於テ中歐同盟國側カ內線作戰ヲ行フカ如キ方法ヲ採リ、以テ全體ノ安全ヲ維持スルコトヲ利益トスル、然ルニ不動產銀行ハ長期ノ確定期限ヲ有スル債券ヲ發行スルモノデアツテ、普通銀行ノ如ク不時ノ預金取引ノ危險ニ暴露セラルルモノテナク、從ツテ其地位ヲ安固ニスル爲メニ合併ヲ行フヲ必要トシナイ。

普通銀行ハ上述ノ如ク合併ニ由リテ平時及異常時ニ處スルノ能力ヲ著シク増大シ、其結果ハ銀行ノ信用ヲ高メテ低利ニ豊富ノ資金ヲ世間ヨリ集メ得ルコトナルノテアルカ、不動產銀行ハ合併ヲ行フモ特ニ著シク其金融能力ヲ強メルコトヲ得ナイ。今日勸業銀行カ農工銀行ヲ盡ク合併シテモ、之ニ由リ大ニ其信用ヲ高メテ今日ヨリモ著シク低利ニ債券ヲ發行シ得ルニ至ルヘシトハ考ヘラレナイ。固ヨリ分立セル農工銀行ハ勸業銀行ノ如ク低利ニ資金ヲ集メルコトハ出來ナイガ、之ニ對シテ低利ノ資金ヲ供給スルコトハ勸業銀行ノ任務テアツテ、此任務ヲ行フカ爲メ特ニ多大ノ特典ヲ與ヘラレテ居ルノテアルカラ、農工銀行ハ低利ノ資金ヲ得ル爲メニ勸業銀行ト合併シテ其支店トナルヲ必要トシナイ。

以上ノ如ク不動産銀行ハ普通銀行ノ場合ヨリ類推シテ、合併ニ由リ著シク其金融能力ヲ高メテ結局世人ニ資金ノ低利供給ノ利益ヲ與フルニ至ルヘシト論スルハ當ヲ得ナイガ、假リニ不動産銀行モ合併ニ由リ相當ニ其能力ヲ高メテ廉價ニ活動シ得ルニ至ルトシテモ、其結果カ直チニ資金需用者ニ對シテ資金ノ低利供給ノ利益ヲ與フルコトトナルカ爲メニハ、不動産金融ニ付テ強ク競争ノ行ハルルコトヲ必要トスル。然ルニ勸業及農工銀行ノ合併ニ付キ、強制ニ由ラス任意合併ノ方法ヲ採ルコトトナシテモ實際ニハ終ニ全部ノ併合トナルヘク、又徹底セル合併論ハ此ノ如キ全部ノ合併ヲ主張セサルヲ得ナイノヲアルガ、果シテ然リトスレハ不動産金融就中年賦償還ニ由ル長期ノ不動産金融ニ付テハ勸業銀行カ大ナル程度ニ獨占企業ノ地位ヲ占ムルコトトナル。現ニ今日當業者間ニ合併論ノ起リシ動機ノ一ハ勸業農工商銀行ノ間ノ競争ノ苦痛ヲ免レントスルニ在ルノ事實ニ顧ルモ、合併ニ由ル獨占力ノ發生ヲ觀過スルヲ得ナイ。論者ハ此場合ニ政府ノ監督ニ由リ其獨占力ノ跋扈ヲ制スルニ難カラスト信スルカモ知レヌガ、予輩ハ政府監督權ノ萬能力ヲ信スルヲ得ナイ。金融制度ヲ立ツルニ方テハ成ルヘク政府ノ監督權ノ行使ヲ不必要ナラシムルカ如キ方法ヲ採ルコトヲ安全トスル。

三

勸業及農工銀行ノ合併ノ利益トシテ主張セラルル他ノ重要點ハ、合併ニ由リ資金ノ統一の配給ヲ容易ナラシメ、以テ金利ノ不平均ヲ矯正シ得ルト云フノテアル。元來資金ノ需用供給ノ狀況ニ差ヲ生シテ金利ノ不平均ヲ來タス場合ハ二種ニ分レル。一ハ垂直的即チ上下層の金融ニ於ケル金利ノ不平均ヲアリ。他ハ水平的即チ地方的ノ金利ノ不平均ヲアル。世人ハ資金ノ配給ヲ適當ニ行

フテ金利ヲ平均セシメルト云ヘハ、單ニ地方的不平均ノ矯正ノミヲ考ヘルノテアルカ、此見解ハ大ニ誤ツテ居ル。特ニ小企業ヨリ成立スル所ノ我農業ニ對スル金融ニ付テ考ヘル場合ニハ、垂直的ノ不平の矯正ヲ重要視セネハナラヌノテアル。然ルニ此點ニ付テハ最初ニ論シタルカ如ク合併ハ不平均ヲ矯正セスシテ却ツテ之ヲ一層甚シカラシムルノ弊カアル。即チ合併ハ小口貸付ノ發達ヲ阻碍シ、從ツテ一般ニ小口ノ資金ヲ需用スル所ノ眞ノ農業者ハ勸業銀行以外ノ金融機關ヨリ高利ノ資金ヲ求メサルヲ得サル結果トナルノテアル。

次ニ論者カ主トシテ着眼スル所ノ資金ノ地方の配給ニ付テ見ルニ、不動産銀行ノ合併モ經濟ノ發達セル小數ノ重要地方ニ資金融通ヲ集中スルノ傾向ヲ生シ、只タ其重要地方相互ノ間ノ配給ヲ一層敏活ニ行フコトトナルニ過キササルハ、尙ホ普通銀行ノ合併ノ場合ニ於ケルト略ホ同様トナラサルヲ得ナイ。然ラハ何故ニ不動産銀行ノ合併ノ場合ニモ此ノ如キ結果ヲ生スルヤト云フニ、第一其合併ハ銀行ヲシテ大口ノ貸付ニ偏セシムルコトトナルガ、有利ナル大口ノ貸付ハ主ニ經濟發達シテ地價騰貴セル地方、特ニ大都會及其附近ニ於テ多ク發見セラルル。第二ニ同シ小口ノ貸付ヲ行フニ付テモ、經濟ノ發達セル地方ニハ資金ノ需用モ多ク、特ニ商工業ノ爲メノ需用力著シク多ク、又此ノ如キ地方ニハ土地ノ賣買カ盛ンニ行ハレル故、貸金ノ抵當ニ供セラルル土地ノ融通力カ強ク、從ツテ此地方ノ土地ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲スコトハ銀行ニ取ツテ安全ナ爲メテアル。此ノ如ク合併ハ資金融通ヲ汎ク全國ニ分散スルヨリモ之ヲ少數ノ繁榮セル地方ニ集中スルコトトナル。現ニ徹底セル合併論者ハ合併ノ曉ニ於テ營業ノ不振ナル府縣ニハ支店ヲ置ク代リニ出張所ヲ設ケ、又ハ更ニ進シテ隣府縣ノ支店區域ニ編入スヘシ、是レ一國ノ資本ヲ最モ有效ニ活用スル

所以ナリト論スルヲ見テモ、合併ニ由リ生スル所ノ金融集中の傾向ヲ察スルニ難クナイ。然ルニ農業ノ改良發達ト云ヘル我不動產銀行ノ本來ノ目的ヨリ見レハ此ノ如キ金融ノ地方的集中ハ甚タ有害テアル。第一ニ繁榮セル地方ニ集中シテ貸出サレタル資金ノ少ナカラサル部分ハ商工業ニ利用セラレルコトトナル。第二ニ眞ニ農業ニ對シテ融通スル場合ニ付テ見レハ繁榮セル地方ニ資金ノ貸出ヲ集中スルコトハ一國ノ農業發達上敢テ不當ト云ヘナイヤウテアルガ、其實此集中ハ常ニ適度ヲ超ヘル傾向ノ存在スルコトニ注意セテハナラヌ。固ヨリ地味氣候交通等ノ關係ヨリ一般ニ土地ノ生産力ノ大ナル地方ノ農業カ、資本ニ付テモ勞働ニ付テモ先ヅ集約トナリ。其結果收穫漸減法則ノ現ハルルニ及ンテ、資本勞働カ更ニ生産力ノ一般ニ小ナル邊鄙ノ地方ニ配給セララルニ至ルコトハ動カシ難キ經濟上ノ法則テアルガ、併シ今日大都會附近ヤ人口稠密ナル大平洋沿岸ノ一部ニ於テ寸尺ノ土地モ集約ニ利用セラレ、又山嶺マテ開キ盡サルルニ反シ、東北地方ヤ日本海沿岸ニ多大ノ未開地ヲ殘シ、且ツ其農業ノ著シク粗放ナルコトハ、單ニ土地ノ生産力ノ優劣ノミヨリ生シタ現象テナク、經濟以外ノ關係ニ於テ前ノ地方ハ後ノ地方ニ比シ人間ノ生活ニ快適ナル社會狀態ノ成立スル爲メテアツテ、此ノ如キ地方カ勞働ヤ資本ヲ吸引スルノ力ハ累進的ノ傾向ヲ示シ、之カ爲メ人口稀薄資力貧弱ナル地方ヨリ繁榮セル地方ニ對シテ移民ヲ出シ貯金ヲ送ルト云フカ如キ結果ヲ生スルノテアル。商工業カ小數ノ地方ニ集中のニ發達スルコトハ、政治上社會上ヨリ見レハ兎モ角、生産ノ上ヨリ見レハ有利テアリ、從ツテ又勞働ト資本トカ此ノ如キ地方ニ集中スルコトヲ厭ハナイガ、收穫漸減法則ニ支配セラルル農業ニ在テハ、經濟以外ノ原因ヨリ此ノ如キ集中ヲ生スルコトハ甚タ不利テアル。農業ヲ進歩セシメ、特ニ果實蔬菜養蠶等ノ特種農業ヨ

リモ普通農業ヲ進歩セシメ、以テ今後益缺乏騰貴ノ傾向アル日本米ノ生産ヲ有利ニ増加セシメントスレハ、先ツ政府カ邊鄙ノ地方マテモ一般文化ヲ普及シテ人間ノ生活ニ快適ナル社會ヲ發達セシムルコトヲ必要トスルカ、同時ニ農業發達ノ目的ヲ以テ設立セラレタル勸業及農工銀行モ農業資金ヲ成ルヘク汎ク各地方ニ配給スルコトニ努メテハナラヌ。此點ヨリ見テモ其合併ハ不當ト云ハテハナラヌ。

以上述ヘ來リタル合併反對意見ハ一ノ有力ナル農工銀行カ附近ノ農工銀行ヲ併吞スル場合ニモ等シク適用セラルル。而シテ其合併カ既ニ不當テアルトスレハ、合併ノ方法形式ノ利害得失ヲ論スルノ必要ヲ見ナイノテアルガ、政府ノ立案セル如ク任意合併ノ方法ヲ探ルトキハ先ソ經濟ノ不振ナル地方カ多ク合併ヲ希望シ實行スルコトナルテアラウ。然ルニ我農業ヲ發達セシムルカ爲メニハ此ノ如キ幼稚未開ナル邊鄙ノ地方コソ實ニ獨立ノ農工銀行ヲ存シテ其地方金融ニ努力セシムルノ必要カ多イノテアル。

最後ニ序ヲ以テ一言注意シタキハ、近來地方ノ普通銀行ノ不動産抵當貸付事業ニ付キ勸業及農工銀行ト密接ノ連絡ヲ取ツテ全體ノ不動産金融事業ヲ統一スヘシトノ説モ、亦茲ニ論スル合併論ト同シク勸業及農工銀行ヲ以テ純然タル不動産銀行ナルカ如ク見做シ、之ヲ以テ特ニ農業金融ノ機關タラシムルコトヲ重要視シナイ傾向ヲ有スルモノト云ハテハナラヌ。實際界ニ於ケル農業ト商工業トノ衝突及思想界ニ於ケル商工主義ト農本主義トノ衝突ハ今後モ續々之ニ類スル運動ヲ喚起スルテアラウガ、予輩ハ茲ニ我國民ノ常食トシテ強ク執着スル所ノ日本米ナルモノハ、日本以外ニ廉價ニ生産シテ輸入シ來ルヲ得サルノ一事ヲ特ニ高調スルノ必要ヲ感スルノテアル。(完)